

タイトル:平成 29(2017)年度 教育セミナー(第 13 回)

日時:2017 年 9 月 14 日(木)~17 日(日)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階大会議室(303)

木原 悠 (お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科)

四日間、大変貴重な場に参加させていただき誠にありがとうございました。私は二年ぶりに出席しましたが、本セミナーに参加することで専門的な知識が得られたり、普段お会いする機会の少ない他大学の方々と交流できたりする点は本当にありがたいことだと改めて思いました。前回参加させていただいた時には、とにかく専門知識の情報量に圧倒され、右も左もわからないままあっという間に過ぎた、という印象をもちました。ですが、前回にお世話になった先生方や面識のある方とお会いできたこともあり、今回はずいぶん落ち着いてセミナーに参加することができました。参加者の中には今回が三回目だと仰る方がおり、モチベーションの高さに驚くとともに、積極的に学びの場に参加し続ける大切さを実感いたしました。加えて、セミナーの冒頭に黒木先生が「あらゆることは関連している」とお話し下さったので、今回は、自分自身の研究課題を軸において様々な発表を拝聴させていただきました。すると、一見無関係な内容でもどこか自分の研究にも通じる点があり、それらを見つけていくことが面白かったです。単純に専門的な知識の獲得に留まらず、翻って、自分のなかに多面的な視点を生み出すことにつながりました。実際に、本セミナーへの参加が自分の研究を客観的に見つめる良い機会になりました。

この場での先生方や受講生の方の的確なコメント・質問は、大変勉強になりました。各発表では時間いっぱいまで議論が白熱していましたが、こうした議論を通じて発表の内容がより深く理解できることもありました。質問を投げかけることで、発表者の盲点を指摘し研究の精度が向上していくことがわかりました。事実、発表された受講生の方々がおしなべて「(発表したことが)良い経験になった」と述べていたことから、この場で発表することは、それだけ得られるものが大きいのだと思いました。同時に、長らくフィールド・ワークをされている先生方や、それに挑戦している受講生のお話に刺激を受けました。自ら足を運んで研究をすることで、個人的な想いがつまったフィールドのお話を伺うことができました。これは、その研究者独自の視点としてとても興味深かったです。

最後になりましたが、事前の準備からセミナー修了に至るまで、こと細やかにご配慮下さりありがとうございました。AA 研の強力なサポートに、いつも助けていただいております。この度も本当にお世話になりました。